

5年生保護者の皆様

丹波篠山市立岡野小学校 校長 足立 貞治

5年生『丹波篠山市学力状況調査』の結果について

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査は、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。本調査について分析結果をまとめました。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、保護者・地域の皆様のご理解とご協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導上の工夫改善に努めます。

〈国語〉

○成果……我が国の言語文化に関する事項、文章を書くこと、主体的に学習に取り組む態度

「我が国の言語文化に関する事項」の正答率は84.0%(目標値70%)、「文章を書く」の正答率は68%(目標 57.5%)でした。また、国語科における「主体的に学習に取り組む態度」が68.8%で、目標値を10.8ポイントも上回っていることは、本校の目指す「児童の主体的な学び」の実践ができている成果とも言えます。

●課題……漢字を書く、話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている

目標値との差が大きかったのは、正答率28%(目標値60%)の「工作のざいりょうをそろえる。」という、第4学年に配当されている漢字が正しく書いているかどうかをみる問題でした。また、その次に差が大きかったのは、正答率56%(目標値70%)の話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題でした。

☆課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

国語科の漢字の指導において、日頃から小テストなどを通して習熟を図るとともに、今後も継続して既習漢字を使うように指導を継続していきます。また、授業でスピーチなどの聞き取りを行う際には、話し手がどのように話したのか、着目して聞くように指導を心がけていきます。

〈算数〉

○成果……教科全体、データの活用

算数科の教科全体の正答率が63.4%で、目標値を0.1ポイント上回っています。また、計算問題など基礎的な力をみる問題では、比較的に正答率が高かったです。

●課題……いろいろな形（平行四辺形の作図）、伴って変わる2つの数量（変わり方の調べ方）

いろいろな形では、平行四辺形の作図方法を理解しているかどうかをみる問題で、正答率16%(目標値50%)と大きく差があることがわかりました。また、変わり方では、伴って変わる2つの数量の関係を式に表して、その一方の値からもう一方の値を求める方法を説明する力を見る問題に課題があることがわかりました。

☆課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

平行四辺形の作図方法は、何通りもあります。平行四辺形の性質をしっかりと理解し、どの性質を利用して作図しようとするのか、根拠をもってできるようにすることが大切です。また、伴って変わる2つ数量の学習では、2つの数量の関係を見出すために、表を縦と横の両方から考察する力が必要です。こうした、数学的な見方、考え方についても継続して指導をしていきます。

【保護者の皆様へのお願い】

市調査の結果から、国語科では、漢字学習の定着に課題があることがわかりました。学校でも、新出漢字の学習や朝スキルでの小テストの実施など、どの学習でも継続して取り組みを進めていますが、ご家庭においても日々の宿題での漢字学習や自主学習など、当該学年の漢字だけでなく、下学年の漢字の定着ができていくかどうかについても、定期的にご確認いただく協力をしていただける幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。